

## レポート変換ツールガイド



# 目次

<b>1</b>	<b>4.0 サポートパッケージ 7 の新機能</b>	<b>4</b>
<b>2</b>	レポート変換ツール™ の概要	<b>5</b>
2.1	レポート変換ツール™ とは	6
<b>3</b>	レポート変換ツール™ の作業モード	<b>7</b>
3.1	レポート変換ツール™ の接続モード	7
3.2	レポート変換ツール™ のスタンドアロンモード	7
<b>4</b>	レポート変換ツールの使用	<b>9</b>
4.1	レポート変換ツール™ のインストール	9
4.2	レポート変換ツール™ のユーザ設定の編集	9
4.3	レポート変換ツールの起動	9
4.3.1	レポート変換ツール™ を接続モードで起動する	9
4.3.2	レポート変換ツール™ をスタンドアロン モードで起動する	10
4.4	レポートの選択	10
4.4.1	リポジトリを参照する	10
4.4.2	レポート変換ツール™ を使用してレポートを検索する	11
4.4.3	変換のためにレポートを個別に選択する	11
4.4.4	変換のためにレポートをフォルダ別に選択する	11
4.4.5	変換のためにレポートをカテゴリ別に選択する	11
4.4.6	変換対象レポートの一覧を保存し開く	12
4.4.7	レポートを変換する	12
4.4.8	レポート変換のステータスアイコン	12
4.4.9	SQL 文の直接入力またはストアドプロシージャを含むレポートの変換に関する制限	13
4.5	変換結果の表示と監査データベースの選択	14
4.5.1	監査接続を作成し、それをレポート変換ツール™ に割り当てる	14
4.5.2	レポート変換ツールの監査レポートを表示する	15
4.6	変換されたレポートの公開	15
4.6.1	変換されたレポートを公開する	15
4.6.2	完全に変換されたレポートを比較する	16
4.7	Desktop Intelligence レポートインスタンスの Web Intelligence インスタンスへの変換	18
<b>5</b>	<b>Desktop Intelligence 機能の変換</b>	<b>20</b>
5.1	レポートの機能と変換のステータス	20
5.1.1	完全に変換されたレポート	20
5.1.2	部分的に変換されたレポート	20
5.1.3	変換されないレポート	21

---

5.2	機能の変換ステータスのカスタマイズ	21
5.2.1	初期化ファイルについて	21
5.2.2	初期化ファイルの編集	22
5.3	機能とその変換ステータス	22
5.4	レポート変換ツール <sup>TM</sup> での式の変換	27

# 1 4.0 サポートパッケージ 7 の新機能

Desktop Intelligence ドキュメントを Web Intelligence ドキュメントに変換できるだけでなく、Desktop Intelligence ドキュメントのインスタンスも Web Intelligence 形式に変換できるように、レポート変換ツールが強化されました。この機能強化の詳細については、以下に示す関連トピックを参照してください。

## 関連リンク

[Desktop Intelligence レポートインスタンスの Web Intelligence インスタンスへの変換](#) [ページ 18]

## 2 レポート変換ツール™の概要

SAP BusinessObjects Business Intelligence (BI) プラットフォーム 4.0、サポートパッケージ 5™ で、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence XI R2 および XI 3.0™ レポートを Web Intelligence 4.0、サポートパッケージ 5™ 形式に変換するには、レポート変換ツール™を使用します。

Desktop Intelligence™ レポートを変換する前に、SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.0、サポートパッケージ 5™ クライアントツールをインストールおよび設定する必要があります。

### i 注記

Desktop Intelligence™ レポートは SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.0、サポートパッケージ 5™ ではサポートされていません。SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.0、サポートパッケージ 5™ で Desktop Intelligence™ レポートのデータにアクセスするには、レポート変換ツール™を使用して Desktop Intelligence™ レポートを Web Intelligence™ レポートに変換する必要があります。

次の種類のレポートを Web Intelligence 4.0、サポートパッケージ 5™ (WID) 形式に変換するには、レポート変換ツール™を使用します。

- 依存関係がアップグレードマネージャ™を使用する 4.0、サポートパッケージ 5 CMS に移行される Desktop Intelligence™ レポート。依存関係には、フォルダおよびオブジェクト、他のアプリケーションオブジェクト、およびユニバースが含まれます。アップグレードマネージャ™を使用してから、レポート変換ツール™を使用して Desktop Intelligence™ レポートを Web Intelligence™ レポートに変換することをお勧めします。アップグレードマネージャ™を Desktop Intelligence™ レポートに使用しない場合、次の理由により Web Intelligence™ レポートを最新表示できない場合があります。
  - Web Intelligence™ レポートの出力先でソースフォルダ構造を使用できない。

### i 注記

Desktop Intelligence™ レポートを Web Intelligence™ レポートに変換した場合、デフォルトでは、出力先 CMS の Public folder\Report conversion tool\Report conversion tool documents にレポートが保存されます。ただし、別の場所に保存することもできます。アプリケーションはフォルダをフォルダ名ではなく CUID という個別の ID で認識するため、同じソースフォルダ名のフォルダを手動で作成しても、Web Intelligence レポートは最新表示されません。

- 他のアプリケーションオブジェクトとユニバースを使用できない。
- SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ で次のデータプロバイダを基に直接作成された Desktop Intelligence™ レポート

Business Objects™ ユニバース

Microsoft Excel ドキュメント

ASCII ファイル (形式は ASC、PRN、CSV、TXT)

SQL 文の直接入力およびストアードプロシージャ

## 2.1 レポート変換ツール™とは

レポート変換ツール™は、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence XI R2 および XI 3.0™ レポートを Web Intelligence 4.0、サポートパッケージ 5™ 形式に変換し、変換したレポートを 4.0、サポートパッケージ 5 CMS に公開します。

これは、*Central Management Server (CMS)* から、パブリックフォルダ、お気に入りフォルダ、または受信ボックスフォルダにレポートを取得します。変換が完了したら、元の Desktop Intelligence™ レポートと同じフォルダまたは異なるフォルダに公開できます。

このツールでは、Desktop Intelligence™ のすべての機能やレポートが変換されるわけではありません。変換のレベルは、元のレポートの機能によって変わります。特定の機能を含むレポートは変換されない場合があります。その他の機能は、変換中にレポート変換ツールによって変更、再実装または削除されます。

このツールでは、各レポートに対して、次に示す 3 つのステータスのいずれかを割り当てます。

- 完全に変換
- 一部のみ変換
- 未変換

レポート変換ツール™を使用して、変換されたレポートを監査することもできます。これにより、レポート変換ツール™で完全に変換できないレポートを識別でき、その理由を理解しやすくなります。

### i 注記

Desktop Intelligence 機能の変換について詳しくは、*SAP BusinessObjects レポート変換ツールガイド*を参照してください。

## 3 レポート変換ツール™の作業モード

レポート変換ツール™は、接続モードとスタンドアロンモードの2つのモードで作業できます。

### 3.1 レポート変換ツール™の接続モード

接続モードでは、レポート変換ツール™はソースおよび出力先の CMS に接続されます。

- ソース CMS に保存されている Desktop Intelligence™ ドキュメントを Web Intelligence™ 形式に変換できます。
- 変換されたドキュメントは 4.0、サポートパッケージ 5 CMS に公開できます。
- 変換セッション中にユニバースを作成する必要がある場合、ユニバースは CMS 内に作成されます。

#### i 注記

Desktop Intelligence レポートを SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャで作成した場合、レポート変換ツール™では、SQL 文の直接入力やストアードプロシージャをサポートしない Web Intelligence として、ユニバースオンザフライが作成されます。

#### 接続モードのセキュリティ

接続モードで作業しているとき、ユーザー アカウントのセキュリティ権限は、CMS によって適用されます。

### 3.2 レポート変換ツール™のスタンドアロンモード

スタンドアロンモードでは、レポート変換ツール™は CMS に接続されないため、セキュリティは設定されません。作業は、ローカルの保護されていないドキュメントとユニバースに対してのみ可能です。ローカルとは、コンピュータのハードディスクに保存されているということです。ネットワークサーバは含まれません。

スタンドアロンモードでは、ドキュメントを CMS にインポートしたり、ドキュメントを CMS からエクスポートすることはできません。

ローカルの保護されていないユニバースを使用して、ローカルの保護されていないドキュメントを作成したり最新表示したりするために必要なミドルウェアを、レポート変換ツール™と共にコンピュータにインストールする必要があります。

Desktop Intelligence™ ドキュメントを Web Intelligence™ に変換できます。

以前のバージョンの Desktop Intelligence および 3.0™ で作成されたドキュメントは、使用するユニバースがローカルの 4.0、サポートパッケージ 5 ユニバースフォルダにコピーされ、保護されていない (すべてのユーザ用に保存されている) 場合、Web Intelligence 4.0、サポートパッケージ 5™ に変換できます。

SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャを使用しているドキュメントは、Web Intelligence 4.0、サポートパッケージ 5™ に変換できません。

---

## スタンドアロンモードを使用する場合

スタンドアロン モードは、CMS のセキュリティや CMS 接続を使わずに作業する場合に使用します。これを利用すると、ローカルに保存されている保護されていない任意の数のドキュメントを CMS のパフォーマンスに影響を与えずに 1 つの操作で変換できます。



## 4 レポート変換ツールの使用

### 4.1 レポート変換ツール™のインストール

レポート変換ツール™は、Microsoft Windows プラットフォームで実行されます。これは、SAP BusinessObjects 4.0、サポートパッケージ 5™のクライアントのインストールを実行するときに、デフォルトでインストールされます。カスタムインストールを実行する場合は、これをインストールするためにレポート変換ツール™を選択する必要があります。

#### i 注記

監査ログを作成する場合、または SQL 文の直接入力およびストアドプロシージャレポートを検出する場合は、デザイナ™をインストールする必要があります。

### 4.2 レポート変換ツール™のユーザ設定の編集

デフォルトでは、Administrators グループまたはレポート変換ツールユーザ™グループにレポート変換ツールを使用するためのアクセス権があります。

▶ SAP Business Objects Enterprise アプリケーション ▶ レポート変換ツール ▶ セクションでセントラル管理コンソール™を使用してユーザのアクセス権を編集できます。

### 4.3 レポート変換ツールの起動

レポート変換ツール™は、次のいずれかの作業モードで起動できます。

- 接続
- スタンドアロン

#### 4.3.1 レポート変換ツール™を接続モードで起動する

接続モードでは、セキュリティは CMS によって処理されます。

レポート変換ツール™を接続モードで起動する場合、CMS とクライアント/サーバ接続されます。

1. ▶ スタート ▶ プログラム ▶ SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4 ▶ SAP BusinessObjects BI プラットフォームクライアントツール ▶ レポート変換ツール ▶ の順にクリックします。  
レポート変換ツール™のログインページが開きます。

2. [ソース] フィールドで、有効なユーザ名とパスワードを入力し、[システム] リストからソース CMS を選択して、Enterprise 認証モードを選択します。
3. [出力先] フィールドで、有効なユーザ名とパスワードを入力し、[システム] リストから出力先 CMS を選択して、Enterprise 認証モードを選択します。
4. レポート変換ツールの™ インターフェイス言語を変更する場合は、[使用可能な言語] をクリックして言語を選択します。
5. [ログイン] をクリックします。

レポート変換ツール™ が接続モードで起動します。

## 4.3.2 レポート変換ツール™ をスタンドアロン モードで起動する

スタンドアロン モードでは、CMS で保護されたドキュメントまたはユニバースを処理できません。ユニバースを処理するには、ユニバースが C:\Documents and Settings\<ユーザ名>\Application Data\SAP Business Objects\SAP Business Objects 4.0\Universes にある必要があります。マップされたネットワークドライブは、スタンドアロンモードで使用できます。

1. ▶ スタート ▶ プログラム ▶ SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4 ▶ SAP BusinessObjects BI プラットフォームクライアントツール ▶ レポート変換ツール ▶ の順にクリックします。
2. [認証] リストから [スタンドアロン] を選択します。  
[システム]、[ユーザ名]、[パスワード] の各フィールドは無効になっています。
3. レポート変換ツールの™ インターフェイス言語を変更する場合は、[使用可能な言語] をクリックして言語を選択します。
4. [ログイン] をクリックします。

レポート変換ツール™ がスタンドアロン モードで起動します。

## 4.4 レポートの選択

レポート変換ツール™ ウィザードの最初の画面を使用して、変換するレポートを選択します。接続モードでは、左の枠に CMS リポジトリがツリー形式で表示されます。このリポジトリからレポートを選択し、それらのレポートを右側にある変換対象の一覧に移動します。

レポジトリを参照する場合は、フォルダまたはカテゴリ別に表示することができます。

### 4.4.1 リポジトリを参照する

リポジトリを参照するには、次の手順に従ってください。

1. [フォルダ] をクリックしフォルダ別にリポジトリを表示するか、[カテゴリ] をクリックしカテゴリ別にリポジトリを表示します。
2. フォルダまたはカテゴリのプロパティを表示するには、フォルダまたはカテゴリを右クリックしてから [プロパティ] をクリックします。

3. フォルダまたはカテゴリの内容を最新表示するには、フォルダまたはカテゴリを右クリックしてから **[最新表示]** をクリックします。
4. 変換されていないレポートのみを表示するには、画面の下部にある **[変換されていないドキュメントのみを表示]** を選択します。

#### 関連リンク

[レポート変換のステータスアイコン](#) [ページ 12]

## 4.4.2 レポート変換ツール™を使用してレポートを検索する

変換するレポートの名前がわかる場合は、そのレポートを直接検索できます。

1. フォルダまたはカテゴリの一覧の下にある検索ボックスにレポートの名前を入力します。
2. 検索ボックスの右側にある **[検索]** アイコンをクリックします。  
特定のレポート名を検索することもできます。"Sales2" を検索した場合、"Sales2006" や "Sales 2007" など、"Sales2" から始まる名前のレポートがすべて検索されます。  
レポート変換ツール™では、検索項目に一致するレポートが強調表示されます。

## 4.4.3 変換のためにレポートを個別に選択する

レポート変換ツール™ウィザードの **[レポート選択]** 画面で、左の枠からレポートを選択して **[>>]** をクリックするか、レポートを右クリックして **[ドキュメントをバッチ一覧に追加]** をクリックして、レポートを変換対象レポートの一覧にコピーします。

## 4.4.4 変換のためにレポートをフォルダ別を選択する

1. **[フォルダ]** をクリックし、フォルダ別にレポジトリを表示します。
2. 変換するレポートのあるフォルダを右クリックします。
3. フォルダ内のすべてのドキュメント、または、フォルダとそのサブフォルダ内のすべてのドキュメントを選択します。
  - フォルダ内のすべてのドキュメントを変換対象レポートの一覧に追加する場合は、**[フォルダのみ選択]** をクリックします。
  - フォルダおよびそのサブフォルダ内のすべてのドキュメントを変換対象レポートの一覧に追加する場合は、**[フォルダとサブフォルダを選択]** をクリックします。

## 4.4.5 変換のためにレポートをカテゴリ別を選択する

1. **[カテゴリ]** をクリックし、カテゴリ別にレポジトリを表示します。
2. 変換するレポートのあるカテゴリを右クリックします。

3. カテゴリ内のすべてのドキュメント、または、カテゴリとそのサブカテゴリ内のすべてのドキュメントを選択します。
  - カテゴリ内のすべてのドキュメントを変換対象レポートの一覧に追加する場合は、[[カテゴリのみ選択](#)] をクリックします。
  - カテゴリおよびそのサブカテゴリ内のすべてのドキュメントを変換対象レポートの一覧に追加する場合は、[[カテゴリとサブカテゴリを選択](#)] をクリックします。

## 4.4.6 変換対象レポートの一覧を保存し開く

変換対象レポートの一覧を保存するには、まずレポート変換ツール™ を起動して、1 つ以上のレポートを変換対象ファイルの一覧に移動する必要があります。

変換対象として選択したレポートの一覧をファイル(XML 形式)に保存し、後からこのファイルを開いて一覧を設定できます。

1. 変換用ファイルの一覧にレポートが 1 つ以上存在する状態で、[[一覧を保存](#)] をクリックします。
2. [[保存](#)] ダイアログボックスに作成する一覧の名前を入力し、[[OK](#)] をクリックします。
3. 後で一覧を開くには、ウィザードの [[レポートの選択と変換](#)] 画面で、[[リストを開く](#)] をクリックします。
4. 開いて検証するファイルを選択します。  
ファイル内のドキュメントが、変換用ドキュメントの一覧に表示されます。

## 4.4.7 レポートを変換する

レポート変換ツール™ ウィザードの [[レポートの選択](#)] 画面では、変換対象レポートの一覧が配置されています。

1. レポートのデータをテキスト形式に変換するには、[[すべてのセル内容をテキストとして読み込む](#)] を選択します。  
レポート変換ツール™ によってデータがテキスト形式に変換されます。このチェックボックスは、デフォルトで選択されています。このオプションの選択を解除した場合、データはハイパーリンクに変換されます。
2. 変換対象レポートの一覧に SQL 文を含むレポートが 1 つ以上含まれている場合、[[SQL 文の直接入力とストアドプロシージャを含むドキュメントを変換します](#)] を選択します。  
レポート変換ツール™ は、SQL 文のあるレポートを含むすべてのレポートを変換します。このオプションを選択しない場合、SQL 文のあるドキュメントは変換されません。
3. [[次へ](#)] をクリックします。

ドキュメントが変換されている間は、[[変換中](#)] 画面が表示されます。この画面には、変換中のすべてのドキュメントとその変換ステータスが一覧表示されます。

## 4.4.8 レポート変換のステータスアイコン

レポート変換ツール™ ウィザードの [[レポートの選択](#)] および [[変換中](#)] 画面には、レポートの変換ステータスがアイコンで示されます。

アイコン	ステータス	説明
	完全に変換	<p>レポート構造および形式は、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ と Web Intelligence™ で同じです。</p> <div> <p><b>i 注記</b></p> <p>変換されたレポートの構造は元のレポート構造と同じですが、Web Intelligence™ 計算エンジンはこの構造を常に SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ 計算エンジンと同じ方法で解釈するわけではないので、特定の環境では、そのレポートが異なる値を返す場合があります。</p> </div>
	一部のみ変換	一部のレポート機能が Web Intelligence™ に変換されました。変換されていない機能もあります。
	未変換	<i>Web Intelligence</i> に相当するものがない重要な機能が含まれるので、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートは変換されませんでした。

#### 4.4.9 SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャを含むレポートの変換に関する制限

**レポート変換ツール**では、SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャを含む SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートを変換できます。ただし、次の制限があります。

- ローカルマシンにデザイナー™をインストールする必要があります。
- レポート変換ツール™では、CMS に保存されたデータベースへの保護された接続を使用するため、SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャを含むレポートの変換は接続モードでのみ実行できます。
- SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャは、SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャと同じ名前のユニバースに変換されます。
- ユニバースは、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートで SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャに使用したのと同じ接続を使用します。
- パラメータプロンプトを必要とする SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャの場合、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートの設定方法に応じて、生成されたユニバースが次のいずれかの方法でそれを処理します。

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートで SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャに送信されるように設定されたものと同じパラメータを設定する。

Web Intelligence™ レポートの最新表示時にプロンプトを表示する。

## 4.5 変換結果の表示と監査データベースの選択

レポート変換ツール™を起動し、ウィザードの手順に従いレポートを選択および変換すると、[変換セッションの監査] 画面が表示されます。

この画面には、変換されたレポートが変換ステータス (完全に変換、一部のみ変換、未変換) 別に表示されます。各カテゴリにある変換されたレポートの割合が表示されます。

また、この画面を使用して、レポート変換ツール™が変換の詳細を書き込む監査データベース接続を選択して、完全に変換されていないレポートがある場合に、その理由を分析することもできます。それには、まずデザイナー™で監査データベース接続を作成し、CMS を介してそれをレポート変換ツール™に割り当てる必要があります。既存のデフォルトの接続 [Conversion Audit Connection] を使用することもできます。[Report conversion Tool audit statistics report] は、[Conversion Audit Connection] にリンクされる [Report Conversion Tool audit universe] を使用して作成されます。[Report Conversion Tool audit statistics report] は、デフォルトのレポートですが、独自のレポートも作成できます。

### i 注記

デフォルトの接続を選択しない場合、選択した接続が [Report Conversion Tool audit universe] にリンクされていることを確認する必要があります。

### 関連リンク

[レポート変換のステータスアイコン](#) [ページ 12]

### 4.5.1 監査接続を作成し、それをレポート変換ツール™に割り当てる

変換したレポートを公開する前に、レポート変換ツール™を使用して、変換結果を選択した監査データベースに書き込むことができます。一部のレポートが完全に変換されていない場合は、このデータを使用して理由を分析できます。監査データベースを使用するには、まずデザイナー™で接続を作成して、それをレポート変換ツール™に割り当てる必要があります。

1. SAP BusinessObjects BI プラットフォームデザイナー™を起動して、ログインします。
2. **ツール** > **接続** を選択します。
3. [追加] をクリックします。
4. 新規接続ウィザードの手順に従って接続を作成します。詳しくは、Designer ガイドを参照してください。  
レポート変換ツール™の監査は、Oracle、SQL Server、DB2、Sybase、mysql の各データベースのみをサポートしています。RDBMS での監査の使用は保証されません。
5. CMC にログインし、**アプリケーション** > **レポート変換ツール** > **プロパティ** をクリックして、監査に使用する接続を選択し、[更新] をクリックします。
6. レポート変換ツール™の [監査データベースに変換結果を保存する] 画面で、[監査設定] の下にある [監査データベースに変換結果を保存する] オプションを選択し、一覧から監査接続を選択します。  
作成した接続が一覧に表示されない場合は、[最新表示] をクリックします。  
テーブルにデータを追加する方法を選択することもできます。

オプション	説明
新しい行を挿入する前に既存の監査テーブルの行を削除する	現在の変換を監査する前に、監査テーブルの既存のデータをクリアする場合は、これを選択します。以前に監査テーブルに書き込んだ行だけが削除されます。その他のユーザが書き込んだ行は、テーブルに残ったままになります。
新しい行を監査テーブルに追加する	現在の変換データを既存の監査データに追加する場合は、これを選択します。

最後に、テーブルの各行にコメントを追加できます。

変換結果は、この監査データベースに書き込まれ、後で分析に使用できます。

## 4.5.2 レポート変換ツールの監査レポートを表示する

レポート変換ツール™の監査データベース接続と変換されたレポートを選択しています。**レポート変換ツール**の[公開する変換ドキュメントを選択します™]画面が表示されています。

1. **[監査レポートを開く]**をクリックします。

Report Conversion Tool audit statistics report の場所は、Public folder\Report conversion tool \Report conversion tool documents\Report Conversion Tool audit document\です。

2. 表示されたログインページで、監査データベース接続へのログインを入力します。

監査レポートが表示されます。

## 4.6 変換されたレポートの公開

レポート変換ツール™を起動し、ウィザードの手順に従いレポートを選択および変換して、変換結果を表示すると、**[レポートの公開]**画面が表示されます。

**[レポートの公開]**画面からは、変換結果を参照できます。

ウィザードの手順で、変換されたレポートの全体および一部を公開できます。公開する前に BI 起動パッド™でレポートを表示できます。

### 4.6.1 変換されたレポートを公開する

これまで、レポートを選択および変換し、変換結果を参照しました。そして、レポート変換ツール™の**[レポートの公開]**画面が表示されています。

1. オプションで、変換されたレポートの監査レポートを表示するには、監査データの保存を選択している場合は、**[変換結果]**の一覧の下にある**[監査レポートを開く]**をクリックします。
2. 行の左にあるチェックボックスをオンにして、公開するレポートを選択します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっていますが、これをオフにすると、レポートは公開されません。



3. レポートの行を選択してから右クリックして、ターゲット名、ターゲットフォルダ、ターゲットカテゴリなど、公開の詳細を変更します。

デフォルトでは、ターゲット名にはソースレポート名がつけられます。ターゲット名は変更できます。

4. [\[次へ\]](#) をクリックして、レポートを公開します。

変換されたレポートが公開されます。パブリケーションが完了すると、[\[公開が完了しました\]](#) 画面が表示されます。この画面には、ファイルの名前とそのパブリケーションステータスが一覧表示されます。ウィンドウの下部には、各ステータスのレポート数を示すステータスアイコンが表示されます。ステータスには次のものが含まれます。

- 公開が完了しました: レポートは完全に公開されています。
- 一部のみ公開: レポートにリンクされている出力先マシンにあるユニバースが使用できないため、レポートの一部だけが公開されています。
- 未公開: 出力先マシンにあるレポートが公開されていて、その既存のレポートを置き換えない場合、レポートは公開されません。
- 公開に失敗しました: レポートは公開できませんでした。

## 4.6.2 完全に変換されたレポートを比較する

1つ以上のレポートを Desktop Intelligence から Web Intelligence 形式に変換しました。レポート変換ツール™の[\[変換の監査\]](#)画面が表示されています。

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートと変換後の Web Intelligence™ レポートは、計算エンジンの違いによりデータが異なる場合があります。レポート変換ツール™から、レポート比較ツール™の Delta Viewer を呼び出し、元のレポートと変換されたレポート(完全に変換されたレポートのみ)を比較して、違いがある場合はその違いを確認できます。



1. レポート変換ツールの [\[監査データベースに変換結果を保存する\]](#) 画面で、[\[完全に変換されたドキュメントの比較\]](#) オプションを選択します。
2. 必要に応じて監査設定を設定します。
3. [\[次へ\]](#) をクリックします。
4. 変換元のドキュメントと変換されたドキュメントの比較が完了したら、[\[比較\]](#) ボックスの [\[OK\]](#) をクリックします。  
[公開する変換ドキュメントの選択](#)画面で、[\[違いを表示\]](#) ボタンを使用するとドキュメント間のデータの差分が表示されます。
5. [\[違いを表示\]](#) ボタンをクリックし、レポート比較ツールのデルタビューアを開きます。

### 4.6.2.1 完全に変換されたドキュメントのレポート比較ステータスのアイコン

次の表に、完全に変換されたドキュメントのレポート比較ステータスを表すアイコンを示します。

アイコン	ステータス	説明
	同一	レポートは同一です。



アイコン	ステータス	説明
	更新	レポートは完全に変換されています。ただし、計算の差異のために、変換されたレポートはソースレポートと異なります。
	手動チェックが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>• チャート/グラフィックを手動でチェックする必要があります。</li> <li>• 「移行元ではレポート出力は生成できませんでした」などのエラーのために、レポートは完全に比較されていません。</li> </ul>

## 4.6.2.2 レポート比較ツール

### 4.6.2.2.1 Delta Viewer

[Delta Viewer] は、比較ツールの主要なダイアログボックスです。比較結果の詳細を表示することができます。

[Delta Viewer] では、レポート出力比較 (.roc) ファイルを表示、保存、分析します。

[Delta Viewer] では、次のカラーコードを使用して、2つのドキュメント間の違いを示します。

- 更新された項目は緑で表示
- 除外された項目は赤で表示
- 挿入された項目は青で表示
- 同一の項目は黒で表示

.roc ファイルを開いた場合、または新しい比較処理の完了後に [Delta Viewer] を開くことができます。

[Delta Viewer] を使用して結果を分析する

[Delta Viewer] ダイアログボックスに 2つのドキュメントの比較の詳細が表示されます。

レポート比較ツールのオプションメニューは次のとおりです。

- Tree Panel
- Block Panel
- Slice and Dice Panel

Delta Viewer は次のビューをサポートしています。

- Merged view - 比較元システムレポートと比較先システムレポートの結合と表示ができます。
- Source view - 比較元システムレポートを表示できます。
- Target view - 比較先システムレポートを表示できます。
- Split view - 比較元システムと比較先システムの両方の分割レポートが表示できます。

*Report Panel* でレポート要素を選択すると、結果が *Block Panel* と *Slice and Dice Panel* (レポート要素がテーブルの場合) に表示されます。

1. [View] メニューから [Split view] オプションを選択します。  
比較元のドキュメントと比較先のドキュメントのレポート要素の説明が同じタブに表示されます。
2. [Report Panel] でレポート要素を選択します。  
レポート要素の詳細な情報が *Block Panel* に表示されます。緑、青、または赤のテキストは、移行中に変更が加えられたことを意味します。テーブル構造が [Slice and Dice Panel] に表示されます。

## 4.7 Desktop Intelligence レポートインスタンスの Web Intelligence インスタンスへの変換

Desktop Intelligence ドキュメントをスケジュールしている場合、そのインスタンスはドキュメント履歴に置かれます。ドキュメントを Web Intelligence に変換する一方で、そのインスタンスも Desktop Intelligence 形式から Web intelligence 形式に変換する必要が生じる場合があります。

ドキュメントインスタンスを変換するには、次の手順に従います。

1. レポート変換ツールを接続済みモードで起動します。
2. [レポート変換ツール] ウィンドウのファイルエクスプローラビュー (左のペイン) で、変換する個々のレポートを選択して、[>>] ボタンを選択することでこれらのレポートを右のペインに移動します。

### i 注記

右のペインの [インスタンス] 列に、変換するために選択した各 Desktop Intelligence ドキュメントで利用できるインスタンスの数が表示されます。

3. 右のペインでドキュメントを 1 つ選択して、[インスタンスの変換] を選択します。

### i 注記

この [インスタンスの変換] ボタンは、選択した Desktop Intelligence ドキュメントに利用できるインスタンスがある場合にのみ有効化されます。デフォルトでは無効化されています。[ドキュメントインスタンスの変換] ウィンドウに、ドキュメントのすべてのインスタンスが、それらの名前、所有者、およびタイムスタンプの値とともに表示されます。

4. 変換するインスタンスを選択します。すべてのインスタンスを変換する場合は、最後のテーブル列の上にあるチェックボックスを使用してすべてを選択します。  
部分的に変換されたインスタンスを変換結果に含める場合は、[親が一部変換されている場合に変換を続行] というチェックボックスをオンにします。
5. [OK] を選択します。[レポート変換ツール] (メインビュー) に戻ります。[次へ] を選択します。  
変換処理が開始され、変換が完了すると [変換が完了しました] ウィンドウが表示されます。ドキュメントとそのインスタンスの変換ステータスがこの画面に表示されます。

### i 注記

変換されたドキュメントの行の場合はインスタンス列に「いいえ」、変換されたインスタンスの場合は「はい」が表示されます。これにより、ドキュメントとそのインスタンスを区別することができます。

6. **[閉じる]** を選択して、タスクを続行します。  
Desktop Intelligence (ソース) ドキュメントと Web Intelligence (ターゲット) ドキュメントを比較する画面が表示され、変換結果を監査データベースに保存するためのオプションが表示されます。
7. ソースおよびターゲットのドキュメントやインスタンスを比較する場合は、関連するオプションを選択します。それ以外の場合は **[次へ]** を選択します。  
画面に、変換したレポートやインスタンスを BI 4.1 CMS のターゲットの場所に公開するためのオプションが表示されます (デフォルトでは、デフォルトのプロパティでターゲットに公開するように、すべてのレポートが選択されています)。
8. 必要に応じて、次のいずれかを実行します。
  - ターゲット (Web Intelligence) ドキュメントまたはインスタンスの名前を変更するには、**[ターゲット名]** 列の値を右クリックして **[名前の変更]** を選択し、新しい名前を指定します。
  - ドキュメントの公開場所 (ターゲットの場所) を変更する場合は、**[ターゲットフォルダ]** 列に表示されているフォルダを右クリックして **[フォルダの変更...]** を選択します。
  - Web Intelligence ドキュメントとともにターゲットで公開する、ソースドキュメントの非 Desktop Intelligence インスタンス (.pdf、.xls、.rtf など) を指定する場合は、**[公開する非 .rep インスタンスを選択します]** オプションを選択します。表示されるウィンドウで、公開する非 Desktop Intelligence インスタンスを選択して、**[OK]** を選択します。

#### **i** 注記

変換されたインスタンスを公開するためのターゲットフォルダを変更するオプションは、ドキュメントの場合にのみ画面に表示されます (インスタンスの場合は表示されません)。インスタンスはドキュメント履歴の一部として存在し、ドキュメントそのものと同じフォルダにあるためです。インスタンスに、ドキュメントそのものの以外を場所を設定することはできません。

9. 画面の **[次へ >]** を選択します。  
ターゲットドキュメントとそのインスタンスの **[公開のステータス]** (**[部分的に変換]**/**[完全に変換]**/**[未変換]**) が画面に表示されます。

#### **i** 注記

**[インスタンス]** というタイトルのテーブル列に、ドキュメントの行の場合は「いいえ」、インスタンスの場合は「はい」が表示されます。これにより、ドキュメントとそのインスタンスを区別することができます。

10. **[閉じる]** を選択します。  
変換が完了し、変換結果の概要が画面に表示されます。**[終了]** を選択してツールを終了するか、**[初めに戻る]** (追加のドキュメントやインスタンスを変換する場合) を選択します。  
SAP BusinessObjects InfoView で、手順 8 で指定したターゲットフォルダにアクセスして変換されたドキュメントの **[履歴]** を開き、変換されたインスタンスを表示することができます。

## 5 Desktop Intelligence 機能の変換

### 5.1 レポートの機能と変換のステータス

変換されたレポートと元の Desktop Intelligence レポートの類似レベルは、元のレポートの機能によって異なります。レポート変換ツールでは、Desktop Intelligence のすべての機能を Web Intelligence 4.0 に変換できるわけではありません。Desktop Intelligence の機能の中には、Web Intelligence 4.0 でサポートされないものもあります。レポート変換ツールでは、元のレポートの機能に応じて、レポートに [完全に変換]、[部分的に変換]、または [未変換] のマークを付けます。

元のレポートの各機能には独自に関連付けられた変換ステータスがあり、最も重大なものは変換の全体的なステータスを生成します。たとえば、元のレポートに変換できない機能が含まれているために、[部分的に変換] ステータスが生成されると、レポート全体が部分的に変換されているとみなされ、その機能は Web Intelligence レポートに示されません。

元のレポートに特定の機能があると、レポート変換ツールで Web Intelligence レポートが生成されない場合があります。この場合、変換ステータスは [未変換] になります。

#### 5.1.1 完全に変換されたレポート

完全に変換されたレポートは元のレポートと構造的には全く同じ、またはほぼ同じですが、変換中に一部のマイナー機能やプロパティが失われる場合があります。

##### i 注記

完全に変換されたレポートは元のレポートと構造的には同じですが、特定の状況で変換されると異なる数値を返す場合があります。これは、Web Intelligence 4.0 計算エンジンによる構造の解釈が異なるためです。

Web Intelligence で本来サポートされない機能でも、レポート変換ツールによって Web Intelligence レポートに再実装されるものがあります。たとえば、Desktop Intelligence のグループ化された変数は、変換された Web Intelligence レポートに If 関数を使用して実装されます。

再実装された機能は Web Intelligence で同様に動作しますが、[完全に変換] ステータスには影響しません。

#### 5.1.2 部分的に変換されたレポート

元の Desktop Intelligence レポートの特定の機能は、デフォルトのステータスである [部分的に変換] を生成します。レポートに、[部分的に変換] ステータスを使用する機能が 1 つ以上含まれる場合、レポート全体にも [部分的に変換] のフラグが設定されます。

この動作は、レポート変換ツールの初期化ファイルを編集して変更できます。これは、デフォルトで [部分的に変換] のステータスを生成する機能を含むレポートが多数あっても、その機能の変換が重要ではない場合に使用すると便利です。この場合、初期化ファイルを編集して、その関連のステータスを [完全に変換] に設定できます。

## 5.1.3 変換されないレポート

Desktop Intelligence レポートに、変換できない重要な機能が含まれている場合、レポートは変換されません。たとえば、ユニバース以外のデータプロバイダや SQL 文の直接入力があるレポートに含れている場合、そのレポートは変換できません。

## 5.2 機能の変換ステータスのカスタマイズ

レポート変換ツールには XML 形式の初期化ファイルがあり、このファイルを使用して一部のレポート機能で生成されるステータスを決定できます。これらの機能には、[完全に変換] または [部分的に変換] のフラグを設定できます。

初期化ファイルでは、ニーズに合わせて変換プロセスをカスタマイズできます。変換中に [部分的に変換] ステータスを生成する機能を含むレポートが多数あっても、この機能の変換が重要でない場合は、初期化ファイルを編集して、この機能で [完全に変換] のステータスが生成されるようにします。

### i 注記

初期化ファイルでは、すべてのレポート機能で生成されるステータスを制御できるわけではありません。一部の機能について、レポート変換ツールにより、初期化ファイルの設定ではなくハードコーディングされた変換ステータスが生成される場合は、初期化ファイルを使用してそのステータスを変更することはできません。

### 関連リンク

[機能とその変換ステータス](#) [ページ 22]

### 5.2.1 初期化ファイルについて

初期化ファイルは、errorlogsettings.xml という名前で \$INSTALLDIR/win32\_x86 フォルダに保存されています。ファイルは次のような形式になります。

```
<LOGMANAGER>
<ERRORLOGS TARGET="FULLYCONVERTED">
<!-- FILTER -->
<ERROR TYPE="Filter/FilterFormula"/>
<!-- BREAK -->
<ERROR TYPE="Breaks/ValueBasedBreaks"/>
<!-- DRILL -->
<ERROR TYPE="Drill/QueryDrill"/>
<ERROR TYPE="Drill/MissingRef"/>
<!-- GRAPH -->
<ERROR TYPE="Graph/3DChart"/>
<ERROR TYPE="Graph/PieChart"/>
<ERROR TYPE="Graph/ElementPosition"/>
<ERROR TYPE="Graph/Pie3DChart"/>
<ERROR TYPE="Graph/General"/>
</ERRORLOGS>
<ERRORLOGS TARGET="PARTLYCONVERTED">
<!-- QUERY -->
<ERROR TYPE="Query/Query"/>
<ERROR TYPE="Query/Keyword"/>
<ERROR TYPE="Query/QueryProp"/>
```

```
<ERROR TYPE="Query/QueryCond"/>
<ERROR TYPE="Query/Grouping"/>
...
```

#### i 注記

次の章で提供されている表を使用して、ニーズに合わせてカスタマイズするために初期化ファイルで編集するエントリを確認します。

[機能とその変換ステータス](#) [ページ 22]

## 5.2.2 初期化ファイルの編集

デフォルトでは、ファイルは一部の機能 (<ERRORLOGS TARGET="FULLYCONVERTED"> セクションにリストされているエラー) について [完全に変換] ステータスを生成し、その他の機能 (<ERRORLOGS TARGET="PARTLYCONVERTED"> セクションにリストされているもの) について [部分的に変換] ステータスを生成します。

特定の機能によって生成されるステータスを変更するには、その機能を当該セクションに移動します。たとえば、[部分的に変換] ステータスを生成する、ブロック内の計数でのフィルタ機能が必要ない場合は、対応する要素を次のように FULLYCONVERTED セクションに移動します。

```
<LOGMANAGER>
<ERRORLOGS TARGET="FULLYCONVERTED">
<ERROR TYPE="Filter/BlockMeasureFilter"/>
</ERRORLOGS>
...
...
</LOGMANAGER>
```

#### i 注記

エラーが両方のセクションに含まれる場合は、[完全に変換] ステータスが生成されます。エラーがどちらのセクションにも含まれない場合は、[一部のみ変換] ステータスが生成されます。

## 5.3 機能とその変換ステータス

変換処理を起動する際、完全に変換されるドキュメントもあれば、一部のみ変換されるドキュメントもあります。次の表に、Web Intelligence™ に完全に変換できない Desktop Intelligence™ ドキュメントまたはレポートを示します。

特定の機能があると、レポート全体を変換できない場合があります。

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
データプロバイダ		

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
OLAP データプロバイダ	レポートは変換されません。	未変換
XML データプロバイダ	レポートは変換されません。	未変換
ユニバースデータプロバイダ (4.0、サポートパッケージ 7 でユニバースが見つからない場合)	完全に変換	レポートは変換されます。
ユニバース接続 (4.0、サポートパッケージ 5 でユニバースが見つからない場合)	レポートは変換されます。	完全に変換
クエリ		
計算オペランドを使用するフィルタ	レポートは変換されません。	未変換
クエリー結果オペランド (query on a query) を使用するフィルタ	レポートは変換されます。	完全に変換
ユーザー オブジェクト	レポートは変換されません。	未変換
自動更新設定	設定は失われます。	一部のみ変換
メジャーにフィルタをかけた分析範囲	分析範囲オブジェクトが結果オブジェクトになります。	一部のみ変換  <b>i 注記</b> メジャーオブジェクトに集計フィルタを適用し、分析の範囲を設定すると、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence レポート用に作成される SQL と Web Intelligence レポート用に生成される SQL は異なります。
定義に Designer の @Script 関数が含まれるオブジェクト	レポートは更新できません。	一部のみ変換
クエリーでの並べ替え	並べ替えは失われます。	完全に変換
[末尾の空白を取り除く] オプションセット	オプションは失われます。	完全に変換
[データを受信しない] オプションセット	オプションは失われます。	完全に変換
ドキュメントのプロパティ		

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
拡張表示設定は、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence に存在しません。	拡張表示設定が有効化されます。	完全に変換
フィルタ		
複雑なグローバル フィルタまたはブロック フィルタ	フィルタは失われる場合があります。	Filter/ComplexGlobalFilter または Filter/ComplexBlockFilter
式のフィルタ	変数が作成され、フィルタはその変数に適用されます。	完全に変換
ブロック内のフィルタがメジャーに適用されます。	フィルタは失われます。	Filter/BlockMeasureFilter
セクション		
セクションヘッダ式の表示/非表示	式が True の場合、セクションヘッダは表示または非表示になります。	完全に変換
セクションフッタ式の表示/非表示	式が True の場合、セクションフッタは表示または非表示になります。	完全に変換
折りたたみ/展開		
セクション	レポートは変換されます。	完全に変換
テーブル、クロスタブ、ブレーク	レポートは変換されます。	完全に変換
特殊なレポート コンテンツ		
Windows OLE オブジェクト (静的のみ)	GIF 形式に変換されます。	完全に変換
画像 (TIFF) (静的のみ)	GIF 形式に変換されます。	完全に変換
動的な場合の画像または OLE オブジェクト (たとえば、ランタイムに、または "Read as pictures" プロパティを使用して計算されるパス)	画像またはオブジェクトは失われます。	画像またはオブジェクトは削除されます。
ブロック		
Hide Block 式	レポートは変換されます。	完全に変換
クロスタブの横軸表示設定	設定は失われます。	一部のみ変換
改ページ後の改ページ ヘッダー設定	設定は失われます。	一部のみ変換
改ページ後の改ページ フッター設定	設定は失われます。	一部のみ変換



SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
非表示オブジェクト ([ピボットをブロック] 設定)	オブジェクトの種類がメジャーの場合、このオブジェクトは完全に変換されます。	完全に変換
ブレーク		
複数のディメンションでブレーク  <div> <i>i</i> 注記            これは、単一のディメンションに複数のブレークを持つ 1 つのブロックではなく、複数のディメンションで定義されているブレークを表します。         </div>	レポートは変換されます。	完全に変換
ブロックではなくオブジェクトでブレーク	レポートは変換されます。	完全に変換
ブレークの折りたたみ	レポートは変換されます。	完全に変換
値ベースのブレーク	レポートは変換されます。	完全に変換
ページ		
ページ設定オプション	レポートは変換されます。	完全に変換
関数		
ApplicationValue	RepFormula ("original_syntax") として表示されます	Formula/UnsupportedFunction
BlockNumber		
CurrentPage		
GetProfileNumber		
GetProfileString		
Hyperlink		
OLAPQueryDescription		
PageInSection		
CountAll	Web Intelligence 構文に変換されます。	一部のみ変換
日付形式		

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
すべての日付形式	マッピングに応じて等価の Web Intelligence 形式に変更されます。	完全に変換
セルの書式設定		
文字挿入	文字挿入は失われます。	完全に変換
Hide cell 式 (独立セル)	hide cell 式は失われ、セルは常に表示されます。	FormatCell/Appearance
罫線スタイル	マッピングに従って変換されます。	完全に変換
変数		
すべての変数	変数の説明は失われます。	完全に変換
変換できない別の変数を参照する変数	レポートは変換されません。	未変換
グループ化された変数	グループ化された変数は <code>if</code> 関数を使用して実装されます。	完全に変換
並べ替え		
ブロックは、ブロックに含まれないオブジェクトで並べ替えられます。	レポートは変換されます。	完全に変換
チャート		
複数グループ	最初のグループのみ表示されます。	Graph または MultiGroupChart
3D 円チャート	Web Intelligence の 3D 円チャートにはプロット エリアがありません。	Graph または Pie3DChart
立体チャート	Web Intelligence の立体チャートにはプロット エリアがありません。	Graph または 3DChart
系列の色	系列とその色の元の関係は失われます。	完全に変換
回転、仰角、開始角度	これらの設定は、Web Intelligence では失われます。	完全に変換
プロット エリア	プロット エリアは、Web Intelligence の円チャートと立体チャートには存在しません。	完全に変換
壁面の色	Web Intelligence ではすべての壁面が同じ色になります。	完全に変換
保存オプション		

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
書き込みパスワードまたは読み取りパスワード セット	レポートは変換されません。	未変換
フォント		
フォントのマッピング	カスタマイズ可能なルールに従って SAP BusinessObjects Desktop Intelligence と Web Intelligence 間でフォントがマッピングされます。	完全に変換

## 5.4 レポート変換ツール™での式の変換

Desktop Intelligence™ レポートで使用される次の式は、レポート変換ツール™で変換されるようになりました。

*MultiCube* (Web Intelligence™ レポートでは *ForceMerge* という名称に変更)  
*DataProviderType*  
*Product*

[www.sap.com/contactsap](http://www.sap.com/contactsap)

© 2013 SAP AG or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も SAP AG の明示的許可なしに、いかなる形式、目的を問わず、複写、または送信することを禁じます。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP AG がライセンス、またはその頒布業者が頒布するソフトウェア製品には、他のソフトウェア会社の専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は SAP AG およびその関連会社（「SAP グループ」）が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAP グループは文書に関する錯誤又は脱漏等に対する責任を負うものではありません。SAP グループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

SAP、および本書で言及されるその他 SAP の製品およびサービス、ならびにそれらのロゴは、ドイツおよびその他諸国における SAP AG の商標または登録商標です。

商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。